沢　勝蔵君をしのぶ

立　花　次　郎

沢君が去る9月16日に亡くなられた。しかしまだ活動盛りの年配であるので，君が逝去されたという実感が湧かない。又どこかのゴルフ クラブの薄暗い ロッカー室あたりで，何だ君も来ていたのかと，突然顔を合わせるような気がしてならない。

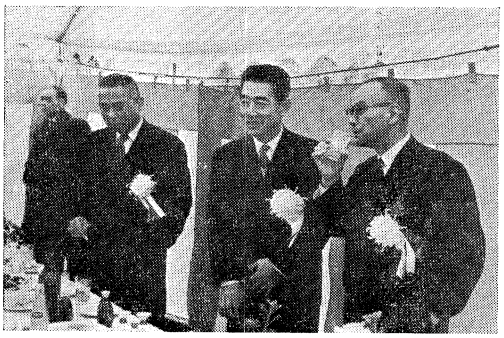
沢君との交わりは大正13年東大工学部の土木科に，お互いに新入生として机をならべたのが始まりである。沢君は三高出身で，京男の色白を自慢したのを記憶している。爾来37年間，職場も違いお互いに多忙であって，そのうち暇になったらゆっくりゴルフ旅行でもして語り合おう等と話合って居ったのも，今は出来ない相談となってしまったが誠に残念である。お互いに レール ウェイマンとして，もっぱらその道に働いてきた関係で，私は沢君の鉄道技術者として，又後年は私鉄経営者としての功績を大いに尊敬するものである。かりにあと10年の歳月をもってしたならば，沢君は必ずや日本の私鉄界のトップ レベルに立つ名実ともに有名人として，大いになすところがあったろうと信ずる。君の早い死去が惜しまれてならない。

沢君は昭和2年に卒業した時，鉄道省の採用試験を受けた。しかしこの年は非常に鉄道省希望者が多くて，約半数は採用もれとなったが，沢君がお役人の道に入らなかったのは，今から考えて反って君に幸であったのではないかと私は思って居る。君は当時目蒲線だけしかなかった今の東京急行電鉄に入り，大五島慶太氏の直接の部下として，東急のために働き，東急と共に育ち，東急と共に大を成したのである。

私共が鉄道省に入って鉄道土木技術に専念し，後日鉄道経営の一端をかじって，技術役人としての位人身を極めて退職し，それからようやく実業界に出て各方面に働き出した時，沢君は既にこけらの生えた実業人として多年の経験を積んで居たのである。

恐らく土木学会誌上に沢君の土木技術関係の研究論文がのつたことは無いと思うが，30有余年の歳月の間に，目蒲線は東横線・池上線と伸び，小田急線・京王帝都線・京浜急行線を合併して大東京急行電鉄となった。東横デパートが生れ，東映が生れ，東急不動産が生れ，その外にも運輸業界・車輌工業界・建設工業界等に，東急の仔会社が数十を数える程出来て，現在盛んに活動して居るが，これらの大部分に何かしら沢君の貢献努力の跡が見られるのである。

昭和35年1月伊豆急行電鉄起工式における沢氏
（向かって右），中央は五島社長，左は木下専務



今から30年位前，東横線の高架線を作り，東横デパートの困難な基礎工事に苦心を重ね，当時非常に遅れて居った私鉄技術界のレベルを，今日みるように国鉄のそれと劣らないものに引上げたのは，沢君の非常な功績であると思う。最近沢君は鉄道技術協会の副会長に選任されて居たが，この功績を買われたものである。

敗戦後の大企業解体の時，沢君は独立した小田急電鉄に廻され，専務として又副社長として安藤社長を援けて小田急の経営に努力して来た。時勢に乗った幸運があったにせよ，最も施設の劣って居た小田急電鉄を，今日見るようにトップ レベルの有力私鉄会社に仕上げたのは，沢君の黙々たる努力の賜物である。その間に箱根登山鉄道への乗入れ，御殿場線へのディゼルカー乗入れ，カルダン車台の特急電車の導入，新宿西口ターミナルの計画決定等，技術出身経営者としてのたくましい創意工夫の足跡が見られるのである。

昭和34年に故五島慶太氏の遺業であり，未着手の大事業である伊豆急行電鉄の建設を委かされ，小田急電鉄の安らかな地位を去って東急専務兼伊豆急行電鉄副社長として，若い五島社長を援けることになった。当時同級会等で会うと，伊東の事務所に5日，東京の本社に2日と云う勤務は，仲々身体にこたえるとこぼして居た。しかし君の円満な人格からして，その他の不満話は聞いたことがなかった。

用地の買収難，温泉地帯の悪地質による隧道工事の困難，これに加えて折からの好景気による物価・労銀の値上り等の種々の悪条件の下に，私鉄の新線路を突貫工事で仕上げて行くことは，誠に人知れぬ苦悩が多かったことと思う。遂にこの最後の大事業が沢君の命取りとなって了った。沢君が身体に異状を訴えて入院したと聞いて居るうちに，9月16日の赴報となった。惜みて限りなき次第である。

沢君の34年間の社会人としての活動は，競争の激しい私鉄界，その他の実業界に於て，故五島慶太氏や，有名な安藤社長等の名声の影にかくれて，左程有名ではない。又華々しく発表された功績もない。しかし黙々たる技術者として，又技術出身経営者としての絶間なき努力は，誠に尊いものであって，社会に貢献したところは甚だ大なるものがある。今や花満開に咲き出でんとして，その寸前に多数の子女を残して急逝された君の心情を思うとき，かえすがえすもお気の毒であり，又社会のために惜しまれてならない（原文のまま登載）。

【筆者：前土木学会副会長，川崎交通建物KK，KK錦糸町交通会館各代表取締役副社長】